

### 令和3年度 地域密着型研究課題

No.	研究テーマ	事業の概要	実施期間
1	数理モデルを用いた感染症の発生動向解析手法の確立	インフルエンザや腸管出血性大腸菌など、岐阜県内にて発生する各種感染症の発生動向について、数理モデルを用いた疫学調査データの解析手法の確立を目指す。	R3年度 ～ R5年度
2	環境水のカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌サーベランス	カルバペネム系抗菌薬は临床上、グラム陰性菌に対する最終選択薬となるが、近年耐性菌が出現し医療分野で問題となっている。本研究では主に下水中のカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌を検出し、その耐性遺伝子を臨床検体由来株と比較することで、県内で潜在的に存在している同菌の実態を浮き彫りにし、薬剤耐性菌対策に寄与する。	R3年度 ～ R5年度
3	下痢原性大腸菌検索における検査手法の検討	食中毒等健康危機管理事案発生時の下痢原性大腸菌検査において、より効率的に大腸菌を検出可能な培養方法を検討し、実用化のための評価を行う。	H30年度 ～ R3年度
4	岐阜県におけるマダニ媒介性感染症のリスク評価	岐阜県内におけるマダニ分布と病原体保有状況を調査してリスク評価を行うとともに、マダニからの病原体遺伝子検出法について検討を行う。	H29年度 ～ R3年度
5	構造判定が困難な指定薬物の同定に資する基礎研究	指定薬物等の規制薬物とその構造が類似する規制対象外薬物の識別では、誤同定の防止が課題となっている。本研究では、岐阜危険ドラッグ解析技術連携協議会の枠組みの中で、岐阜県科学捜査研究所等に協力を求め、これらの構造が類似する化合物を分析対象とし、質量分析計を用いた各種データを収集・解析することで化合物の構造推定を行い、正確に同定することを目的とする。また、共同研究者である岐阜薬科大学薬物動態学研究室とは、各種実験系を用いた代謝挙動の研究を連携して進めていく。	R2年度 ～ R3年度
6	岐阜県における微小粒子状物質の地域特性に関する研究	微小粒子状物質(PM2.5)の成分分析について、行政検査の結果に産業活動に伴う燃焼に関する指標のひとつとなる水溶性有機炭素の結果を追加し、統計解析することで、地域特有の発生源及びその寄与割合を推定し、岐阜県におけるPM2.5の地域特性を把握することを目的とする。	H31年度 ～ R3年度
7	災害等緊急時に適用可能なGC/MSデータベースの構築に関する研究	災害発生時に健康影響が懸念される中揮発性の化学物質を対象とし、分析機器(GC/MS)のメーカーに依存しない測定条件を確立する。またその測定条件を基にした化学物質の基礎データを集積することで、災害発生等緊急時における化学物質の汚染把握に適用可能なGC/MSデータベースの構築を目的とする。	R2年度 ～ R4年度
8	PAHキノン類と光化学オキシダントに関する研究	現在、光化学オキシダントの環境基準達成率は全国でほぼ0%であり、低減化対策が求められている。その中、大気中の多環芳香族炭化水素(PAH)キノン類は、光化学オキシダント発生の原因解明や長距離輸送の中長期的な評価の指標として注目を集めている。そこで、PAHキノン類の分析法を確立し、大気試料を分析、解析することにより低減化対策に関する知見を得ることを目的とする。	R2年度 ～ R4年度
9	食品添加物の分析法に関する検討	ソルビン酸異性体の同定及び異性体を含めたソルビン酸の定量方法について分析メソッドを確立する。さらに、食品別の異性体出現率、異性体存在比率変化、異性体化促進因子について解析する。また、迅速性、省コスト性の向上と共に人工甘味料の検査項目の拡充を図る。	H30年度 ～ R3年度